

## ご家族から専門職に伝えたいこと

- 元気な赤ちゃんを産めなかったという思いが根本的にあるということをわかってほしい。
- 前に進もうと思って、相談をしても断られてしまうことがほとんど。「今度もダメかもしれない」という思いで一步を踏み出そうとしていることを理解してほしい。
- 相談や問い合わせがあった際、「わからない」「無理です」「この管轄ではありません」などの一言で終わるのではなく、一緒に考えてほしい。
- 保健師さんとの電話相談で、関係性を構築することができた。
- いろいろな方に支えてもらっていると感じている。
- 信頼関係が大切だと思った。今までは家族以外に、頼ることができなかった。これからは、市役所の人ともっと話そうと思った。
- 病児の育児は初めてであり、情報がなさすぎる。いろいろな情報がほしい。
- 制度の提案は市役所で行ってほしい。
- 短い期間ではなく、長い期間を想定してサポートをしてほしい。

## まとめ

### ①入院中の情報提供

- ・制度についてや福祉サービスについてなど、最低限の情報は、退院後困らないように入院中に情報提供が必要である。口頭の説明より、文書などの形に残るもので、後から見返せるものがよい。

### ②退院後、寄り添う専門職の存在

- ・相談を受けた人は、わからなくても一緒に考える。ママに寄り添いながらパイプ役になることが大切。
- ・当たり前のことであるが、信頼関係が大切。信頼関係が築くことができないと相談もできない。事務的ではなく、ひと言ひと言に気遣いをもって、誠実な対応を行うようにする。

### ③家族の声を伝える場づくり

- ・お子さんや家族の思いを知ることが、地域づくりの第一歩である。安心してひとりひとりが暮らせる地域をつくるためにも、今後も交流会を開催し、ひとつでも多くの声を聴くことが必要である。

### ④現状に合わせた柔軟な体制づくり

- ・医療の進歩により、在宅で生活する医療的ケアが必要なお子さんが多くなってきている一方で、制度が昔のままである。そのため、市町村や対応する人によって、判断や対応方法に地域格差が生じている。

## 次回のテーマ

### 「情報提供」について(仮)

- ・退院時、必要な情報について
- ・保育園や児童通所施設選びでほしい情報について
- ・ライフスタイル(見通し)の相談について